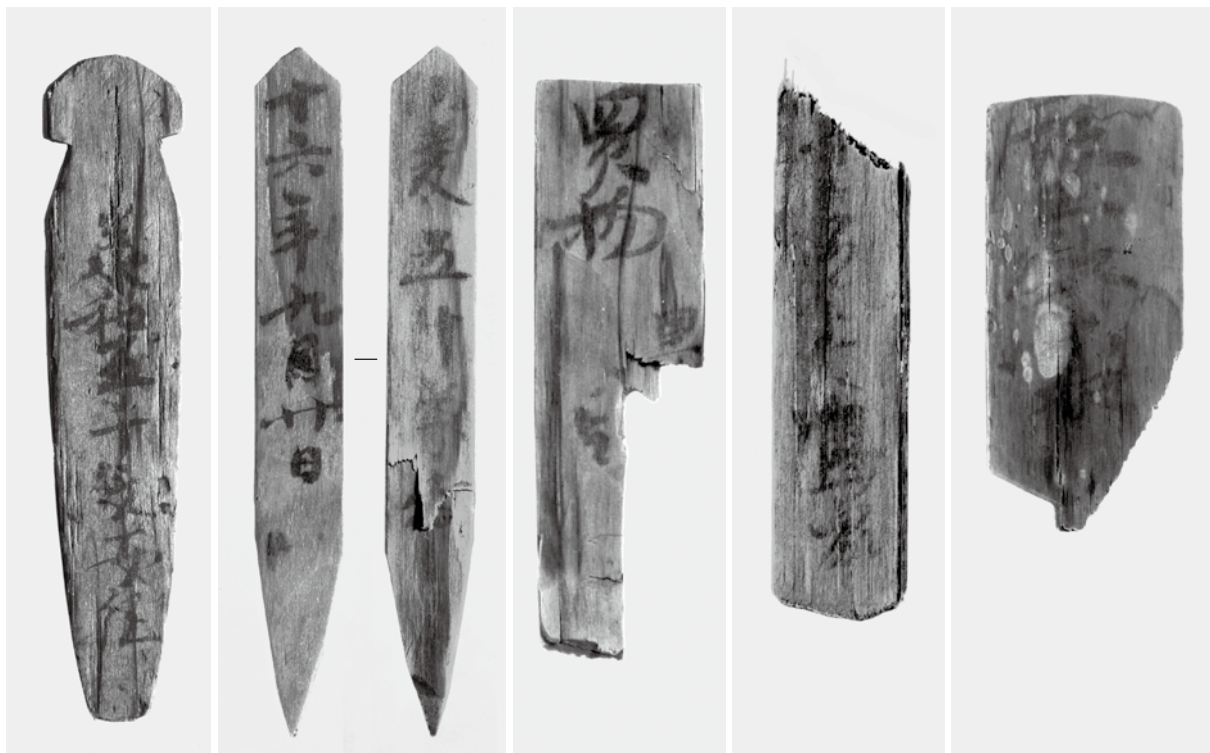


# 平安京西市の外町はいつからあるのか

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



木簡A

木簡B

木簡C

木簡D

木簡E

古代の都における物資調達場所として、東西市（左京に東市、右京に西市）がありました。平安京の東西市の場合は、延暦13年（794）10月に遷都する3ヵ月ほど前から引っ越しが始まっており、官人たちの移住に備えて、着々と準備が整えられていたようです。

問題は、どこまで整っていたかです。図1では、4町分の西市の中心域と外側に展開する8町分の外町からなる完成形態を表示していますが、遷都まで3ヵ月足らずで、本当にここまでできるのか疑問でなりません。発掘調査事例も少ないため、いまだ未解明のゾーンです。

ただ、現在その手がかりとされているのが、西市周辺から発見された出土木簡です。外町を含むその周辺から約200点出土しています。お金のことや、穀物、さらには「買物」と書かれたものなど、確かに物を売買する市で見つかりそうな内容ではあります。では、本当にそうなのか、代表的なものを確認していきましょう。

## 木簡A（図1①出土）

承和五千文安継

「承和五千文」は、承和2年（835）に鑄造された承和昌宝のことです。五千枚のお金に、木簡がくくりつけられていましたが、安継さんの手元に渡った時点で木簡のみ廃棄

されたのではないのでしょうか。お金＝市、と発想しがちですが、お金そのものは官人たちなら当然持っているわけですから、市での売買のみに限らないのです。

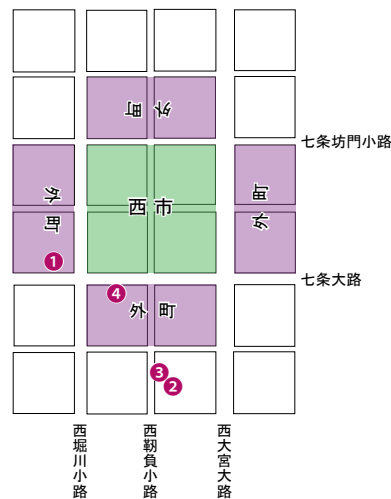


図1 西市と木簡出土地点

### 木簡B (図1②出土)

(表) 小麦五斗「家者」

(裏) 十六年九月廿日

裏面の「十六年」は、遷都直後の延暦16年(797)のことです。「小麦五斗」と書かれた木簡がほかにも多数出土したことから、この地は市の物資集積センターではないかという説もあります。しかし、それらが税の荷札であること、そして木簡Bには「家者」という追記があることなどから、貴族の家の収益に関わる木簡と考えるのが穏当です。

### 木簡C (図1③出土)

(表) 買物 □□

(裏) 笹 □□□

出土したのは、西靱負小路の道路敷直下の南北流路からで、場所は②に近い地です。「買物」の下は、判読できませんが、裏面にあるように、少なくとも笹を買おうとしていたことは間違いのないでしょう。要するに、この木簡は買う物をリストアップしたメモ書きです。「買物」とあれば、安易に市を想像しがちですが、メモした木簡が出土するのは、市に限ることではなく、人が住んでいる京内ならどこでも出土する可能性があります。

このように、木簡AからCをはじめとして、西市周辺から多数の木簡が出土していますが、市に係る確実なものはありません。

ですが、別の側面から見てみると、意外なことがわかります。注目されるのは、離れた場所から、「坂上」という同じ家に関係すると思われる木簡D・木簡Eが見つまっていることです。異なる町からの

出土は、2地点が何らかの関係性をもつことを示しています。では、その関係とは何なのか、具体的に見ていきましょう。

### 木簡D (図1②出土)

上部が折れていて、書き出しはわかりませんが、「坂上人嶋家」とあり、官人の個人名まで書かれています。

### 木簡E (図1④出土)

題籤軸だいせんじくの頭部のみ残存しており、「坂上殿東取」と書かれています。坂上家に関わる何らかの物品の収支帳簿に付けられた題籤軸かと思われます。

これら二つの離れた町域から出土した坂上家の活動記録という共通性を勘案するならば、②④の近辺は、坂上家あるいはさらに上級の貴族(坂上がその事務官)が、物資を調達しやすいように、市の近くに設けた出張所だったのでなかったかとの想定が立てられます。

同時に、木簡Eが、図2のように町内を小区画に整備していく以前の堆積層たいせきから出土していることも重要です。

というのも、従来の考えのように、小区画化が西市の外町整備に伴うものであれば、この木簡の使用時期が外町整備以前となるからです。

つまり、西市の南側の外町とその南側には、市としての外町以前の段階があり、そこには、坂上家あるいは上級貴族に関係する施設があったと考えられるのです。

じつのところ、4町分の西市でさえ、9世紀前半でもすべてが整

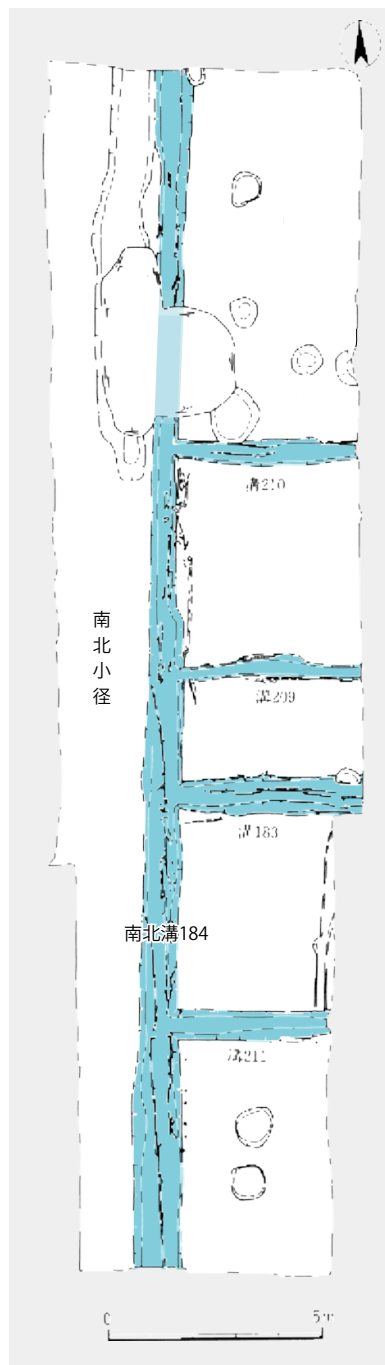


図2 図1④地点の遺構図

南北溝184は右京八条二坊八町域を東西に二分する南北小径の東側溝にあたる。

っておらず、承和8年(841)段階に、約45m四方が空き地であったと国史に記されています。外町なら、なおさらではないでしょうか。したがって、木簡の内容と合わせて考えると、西市の外町としての整備は、9世紀中頃以降になると言えそうです。

(大阪大谷大学 竹本 晃)